



将来の地域医療を考える

近年の人口減少や少子・高齢社会の進展で、地域医療を取り巻く環境は大きく変化してきています。こうした状況の中で、いかに市民の医療ニーズに応え、安心できる医療を、継続的に提供していくか、対応が求められています。

この特集では、医師・看護師不足の現状や今後の地域医療の在り方、庄内地域で先駆的に取り組まれている医療情報ネットワークシステム「ちょうかいネット」などについて専門家に伺いました。



●お問い合わせ／市健康課健康係 ☎24-5733

北庄内の医療の現状

超高齢社会への流れの中で、勤務医師・看護師の不足が深刻な問題になっています。

本市の人口は、年々約1千人ずつ減少し、2025（平成37）年には、9万人台になるとともに、65歳以上の老年人口が全体の38％にまで上昇し、急激に超高齢社会になるものと推測されています（図表2）。

高齢者が増えると、がんや心疾患、脳血管疾患などの高度な治療を要する病気が多くなります。また、その後のリハビリや慢性的疾患の治療、認知症などで、医療さらに介護が必要な方がますます増えていくことが予想されます。

こうした中で、全国的に医師不足が叫ばれており、特に地方における病院や診療所での医師不足は深刻な問題です。

北庄内医療圏域（本市、庄内町、遊佐町）での医師数は、平成24年末現在276人、人口10万人当たり188人で、県の225人、全国の237人を大きく下回っており、当地域においても医師の確保

が大きな課題となっています（図表1）。また看護師不足も問題で、4年に全国で約3万人の看護師不足を予測しています。本市においても、病院、各診療所で看護師の確保が難しくなっています。こうした状況において、継続的に、質の高い医療を提供していくには、医師や看護師などの人材、医療施設などの限られた医療資源を有効に活用していくことが重要です。

北庄内医療圏域においては、中核病院としての日本海総合病院を中心に、地域の適正な病床機能と病床数の配置を考えながら、医療全体の強化を図っていくことが必要です。

図表1 医師数の概要

平成24年12月現在（人）

	庄内			山形県	全国
	酒田地区	鶴岡地区	計		
医師	276	237	513	2,598	295,049
（人口10万対）	188.4	166.9	177.9	225.5	237.8

厚生労働省平成24年医師調査の概要より

北庄内地域の医療と今後の課題

酒田地区医師会会長 栗谷義樹氏

超高齢社会の問題にどのように対応していくのか、一般の医療制度の改正も含めて、地域医療の今後の在り方について、日本海総合病院院長であり、酒田地区医師会会長の栗谷義樹氏に伺いました。



国の社会保障制度改革

2025年に団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、国民の4人に1人が後期高齢者になる超高齢社会が訪れます。その時、医療・介護・福祉などの社会保障費が急増し財政が破たんするのではと危惧されています。いわゆる「2025年問題」です。今年、ちょうどその10年前に当たります。

平成26年6月、政府は社会保障制度改革国民会議の報告を受けて「医療介護総合確保推進法」を成立させ、地域医療ビジョンの策定、病床機能報告制度の導入、地域包括ケアシステムの構築、消費税増収分を活用した新たな基金の設置などを進めることとしました。

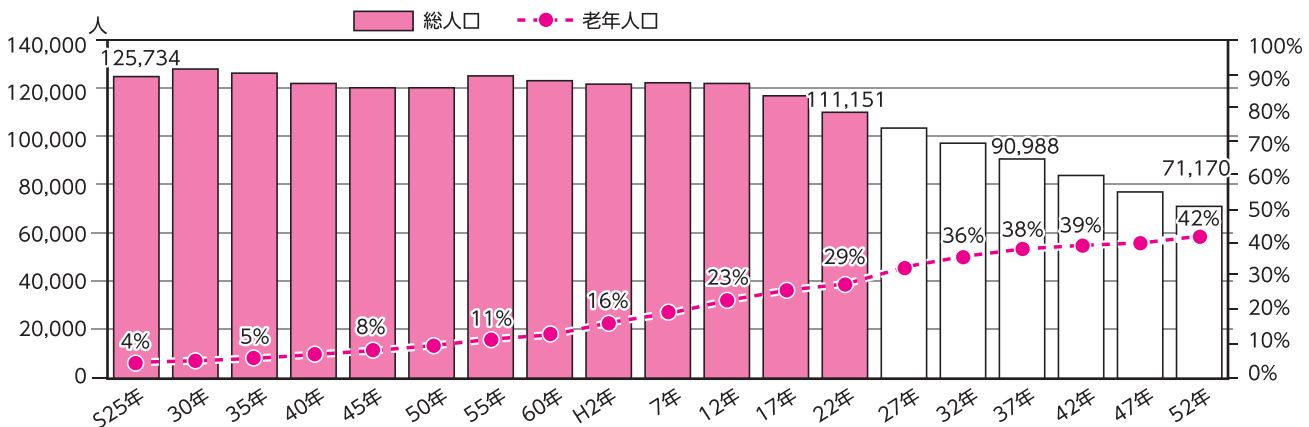
病床機能報告制度とは、病床の医療機能の現状と今後の方向について、病院が国に報告するものです。その集計結果から地域医療ビジョンを策定し、地域の病院を高度急性期、急性期、回復期、慢性期の4つのタイプに機能分化させ、医療資源の効率化を図って2025年問題に備えるものです。

北庄内のこれまでの取り組み

平成19年12月の総務省による「公立病院改革ガイドライン」は、全国の公立病院に「経営の効率化」「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」を求めるものでした。その先陣を切って、平成20年4月1日、山形県立日本海病院と酒田市立酒田病院が統合し

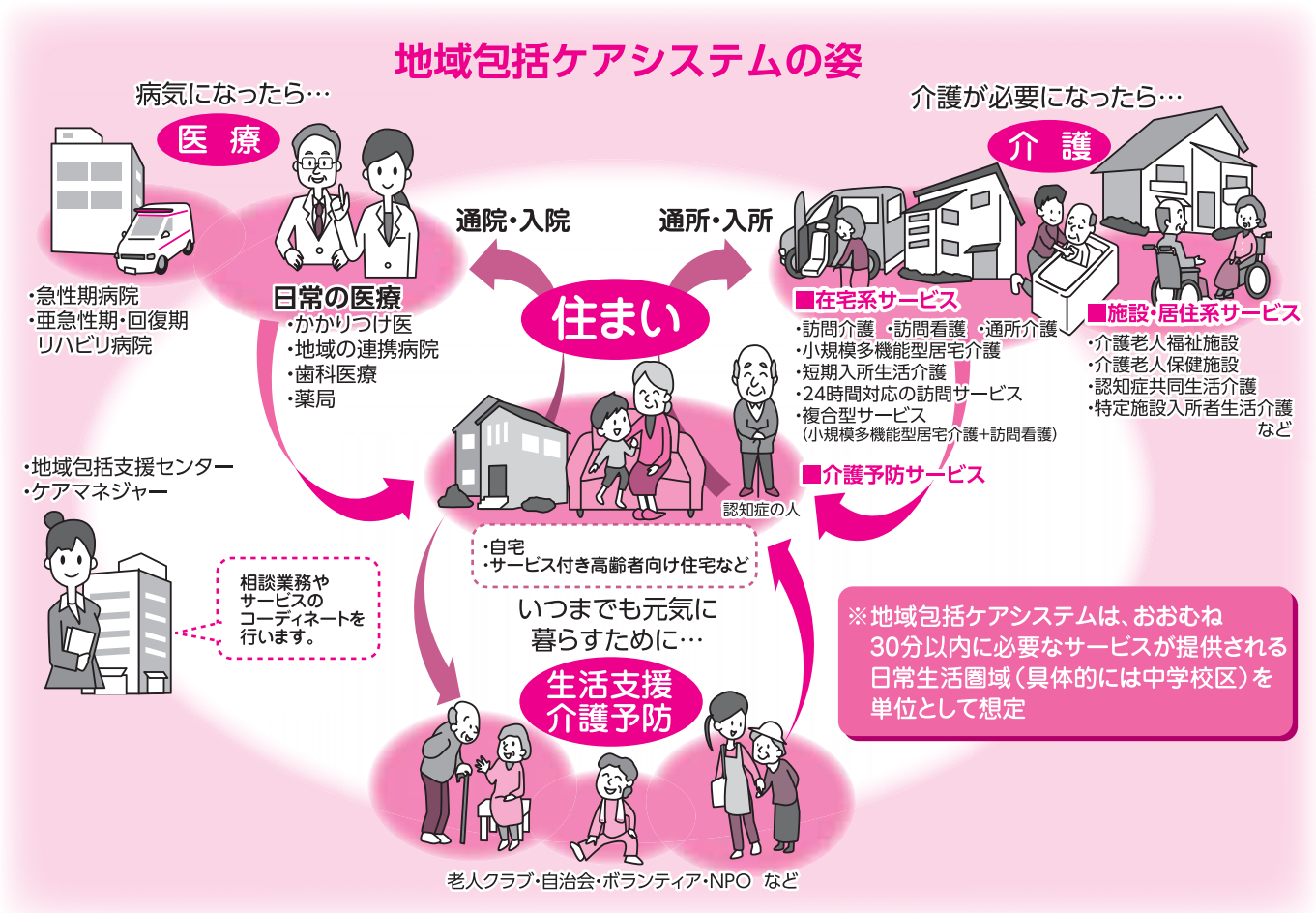
て、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構が設立され、日本海総合病院と酒田医療センターが開院しました。これにより全国的に医師の過重労働やマンパワー不足といった問題が顕在化する中で、北庄内地域では、貴重な医療資源が集約化され、医療の高度化が図られました。さらには「ちようかいネット」の拡大など地域の医療機関の連携強化と機能分化が進み、「再編・ネットワーク化」の成功モデルとされました。これは地域住民をはじめ、各病院・診療所、行政機関、それに山形大学、東北大学など多くの関係者のご尽力があって成功したものと考えています。(次ページへ続く)

図表2 酒田市の将来人口推計



資料 国勢調査、「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

図表3 地域包括ケアシステムのイメージ



酒田地区医師会
会長 栗谷義樹氏

2025年に向けての課題

北庄内地域は、医療においては再編・ネットワーク化が進んだ地域ですが、国は2025年に向けて医療・介護が一体となった「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています（図表3）。これは、医療を「病院完結型」から「地域完結型」へと移行し、さらに介護サービスとの連携を強化するもので、急性期や回復期医療など病院で一連の治療を行った後に、在宅医療や介護サービスが必要とする患者さんを支援する体制です。その点、北庄内地域での医療と介護サービスとの連携は、まだまだ十分とは言えない状況です。行政機関を中心に医療機関や介護事業者などが協力し、地域住民が安心して生活できる環境を整備しなければなりません。

今後の取り組み

医療と介護が連携したシステムを構築するためには、医師をはじめ医療従事者のマンパワーの確保も重要なポイントの一つです。北庄内地域は、人口10万人当たりの医師数や看護師数において、全国平均や県平均を大きく下回っています。しかしながら医療従事者の確保は、早急に改善できるものではありません。地域の限られた医療資源と財源をどのように効率的に活用していくのか、地域での議論が求められています。

2025年までの今後10年間は、国による社会保障制度改革の影響が、目に見える形で現れてくることとでしょう。10年後の医療、介護の姿は、現在の姿と全く違ったものになるかも知れません。そうした大きな変化に遅れることなく取り組んで行かなければなりません。

酒田地区医師会は、限りある医療資源を効率的に活用し、2025年に向けてさらに充実した医療提供体制を築き、介護サービスと連携して住み慣れた場所で安心して生活ができる、そのような地域づくりに寄与してまいります。

地域包括ケアシステムは、医療情報のネットワーク化を進めることで大きな力を発揮します。庄内地域で先駆的に取り組まれている医療情報ネットワークシステムについて、日本海総合病院院長代理の島貫隆夫氏に伺いました。

地域医療を支える「ちょうかいネット」



日本海総合病院
院長代理 島貫隆夫氏

情報通信技術の発展に伴い、病院では多くの医療情報が電子化され、院内の情報共有が進んでいます。その結果、多職種によるチーム医療が飛躍的に進み、患者さんの治療に大きく貢献しています。地域に目を広げ、ITを活用して地域内で医療情報共有を進めると、医療連携がよりスムーズになり、患者さんにとっては大きなメリットになるのではないのでしょうか。

このようなことから平成23年4月、地域医療情報ネットワーク「ちょうかいネット」を立ち上げました。これは患者さんを軸として、複数の病院の医療情報を時系列で一覧表示させるものです。見ることができる情報は診療録、処方、注射、血圧、放射線画像、検体検査、地域連携パスなどです。ただし、これらの情報を見るためには、必ず患者さんの同意を必要とします。

現在月に300人～400人の新規患者登録があり、もうすぐ総登録患者数が15,000人に達しようとしています。庄内地域の約5%の方が利用していることとなります。病院、医科・歯科診療所、訪問看護ステーション、薬局、ケアマネジャーなど現在126の施設で利用されています。このシステムを利用することにより、医療から介護にいたるまで、さまざまな職種を越えて緊密な連携ができるようになりました。医療連携の基本はヒューマンネットワークであり、顔の見える関係が基本ですが、この「ちょうかいネット」を活用することによりさらに密接な医療連携が進んできています。

地域の医療機関が情報を共有し、それぞれの施設の機能を最大限に発揮し、連携によって補い合うことができれば医療効率・医療効果がさらに上がります。地域全体がひとつの病院として機能すれば、負荷の分散も図れ、さらに治療方針や医療のプロセスが共有され可視化・標準化されることで、地域における医療の質が更に向上するのではないかと期待しています。

「ちょうかいネット」は、庄内地域の医療施設などが個人情報保護機能の万全なインターネット回線により診療情報を共有するシステムです。

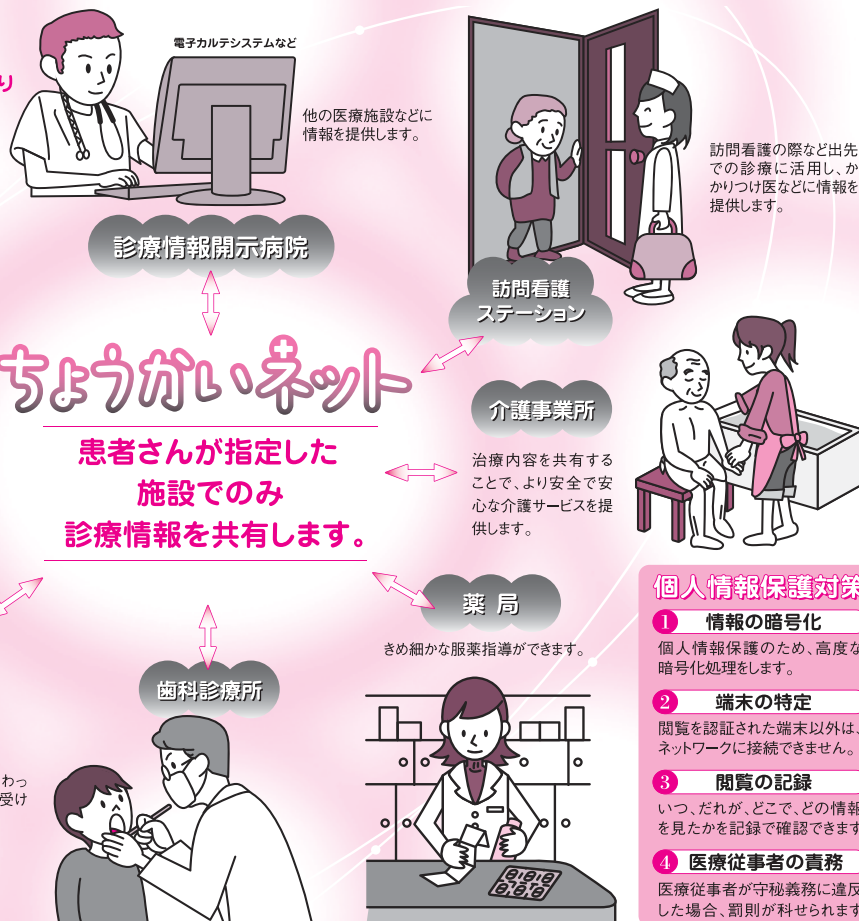
患者さんの同意のもと

病院（急性期医療）、かかりつけ医、在宅ケア、介護事業所が一体となり、切れ目のない連携した医療サービスを受けられるようになります。

地域全体で住民の健康をサポートし、安心して暮らせる社会を実現します。

※診療情報開示病院

- 日本海総合病院
- 酒田医療センター
- 健友会 本間病院・のぞみ診療所
- 鶴岡市立荘内病院
- Net4U（鶴岡地区医師会）
- 庄内余目病院



個人情報保護対策

- 情報の暗号化**
個人情報保護のため、高度な暗号化処理をします。
- 端末の特定**
閲覧を認証された端末以外は、ネットワークに接続できません。
- 閲覧の記録**
いつ、だれが、どこで、どの情報を見たかを記録で確認できます。
- 医療従事者の責務**
医療従事者が守秘義務に違反した場合、罰則が科せられます。